

⑪実用新案公報(Y2)

平4-12808

⑤Int.Cl.⁵

B 60 J 10/04

識別記号

序内整理番号

⑪④公告

平成4年(1992)3月26日

8307-3D B 60 J 1/16

A

(全2頁)

⑫考案の名称 ドアガラス・ランチヤンネル

⑬実願 昭60-92206

⑭公開 昭62-413

⑮出願 昭60(1985)6月20日

⑯昭62(1987)1月6日

⑰考案者 京 裕之 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗用車技術センター内

⑰考案者 吉川 寿一 愛知県岡崎市橋目町字中新切1番地 三菱自動車工業株式会社乗用車技術センター内

⑰考案者 宮崎 克己 茨城県稲敷郡牛久町栄町6丁目288番地

⑮出願人 三菱自動車工業株式会社 東京都港区芝5丁目33番8号

⑮出願人 協栄工業株式会社 千葉県我孫子市中咲1541番地

⑯代理人 弁理士 光石 俊郎

審査官 竹之内 秀明

⑯参考文献 実開 昭57-45593 (JP, U)

1

2

⑦実用新案登録請求の範囲

自動車のドアサッシュに取り付けられておりドアサッシュとドアガラスとの間の密閉遮断を行なうソリッドゴムでなるランチヤンネル本体のうち、ドアガラスの端面が当接する部分のドアサッシュ側に、ソリッドゴムと一緒にスponジゴムを成形するとともにこの部分のソリッドゴムの厚さを薄くし、

更に、ランチヤンネル本体の面のうちドアガラスに接触する面に、減摩コーティングを施したこととを特徴とするドアガラス・ランチヤンネル。

考案の詳細な説明

<産業上の利用分野>

本考案はドアガラス・ランチヤンネルに関し、密閉遮断性が向上するように企図したものである。

<従来の技術>

第2図に示すように自動車のドアサッシュ1の内周縁には、ソリッドゴムで形成されたランチヤンネル2が取り付けられており、上下動するドアガラス3がランチヤンネル2に入り込む。ランチ

ヤンネル2には、ドアガラス3との摺動抵抗を低減するための植毛4a, 4b, 4cが接着剤により接着されている。上記ランチヤンネル2は、ドアサッシュ1とドアガラス3との間の密閉遮断を行なう。

<考案が解決しようとする問題点>

ところで第2図に示す従来技術では、ドアガラス3をランチヤンネル2に押し付けても硬いランチヤンネル2が然程変形しないため、ドアガラス3とランチヤンネル2との間の密閉遮断性及びランチヤンネル2とドアサッシュ1との間の密閉遮断性が、完全であるとは言えなかつた。更に、植毛4aを接着する接着剤によりランチヤンネル2が硬化するためこの傾向が大きくなつていた。

本考案は、上記従来技術に鑑み、密閉遮断性をより完全にすることのできるドアガラス・ランチヤンネルを提供することを目的とする。

<問題点を解決するための手段>

上記目的を達成する本考案は、自動車のドアサッシュに取り付けられておりドアサッシュとドアガラスとの間の密閉遮断を行なうソリッドゴムで

なるランチヤンネル本体のうち、ドアガラスの端面が当接する部分のドアサツシユ側に、ソリッドゴムと一緒にスポンジゴムを成形するとともにこの部分のソリッドゴムの厚さを薄くし、更に、ランチヤンネル本体の面のうちドアガラスに接触する面に減磨コーティングを施したことを特徴とする。

<実施例>

以下本考案の実施例を第1図を基に説明する。同図において1はドアサツシユ、3はドアガラスである。本実施例に係るランチヤンネル5はソリッドゴムでなるランチヤンネル本体5aとスポンジゴム5bとで構成されており、ランチヤンネル本体5aとスポンジゴム5bとは押出成形により一体に成形されている。そしてスポンジゴム5bは、ランチヤンネル本体5aのうちドアガラス3の端面が当接する部分のドアサツシユ1側に位置している。更にこの部分のランチヤンネル本体5bは薄くなっている。またランチヤンネル本体5aには、ウレタン等の減磨コーティング6a、6b、6cが施されており、ドアガラス3との摺動抵抗を低減させようとしている。このコーティング6a、6b、6cによりランチヤンネル本体5aが硬化することはない。

かかる本実施例ではドアサツシユ1側にスポンジゴム5bを設けた。

ジゴム5bが配設されているので、ドアサツシユ1に溶接スポットによる凹凸等があつても、ドアサツシユ1とランチヤンネル5との間の密閉遮断が完全になる。更にドアガラス3をランチヤンネル5に押し込むと、ドアガラス3の当接する部分のソリッドゴムが薄く且つこの裏面にスポンジゴム5bがあるため、ランチヤンネル5は大きく変形して凹む。したがつてランチヤンネル5とドアガラス3との間の密閉遮断が完全になる。なおドアガラス3が直接スポンジゴム5bに当接するのではないため、スポンジゴム5bの疲労耐久性は高い。また本実施例では接着剤を用いていないため、ランチヤンネル5の弾性を保持でき、密閉遮断性の向上を阻害することはない。

15 <考案の効果>

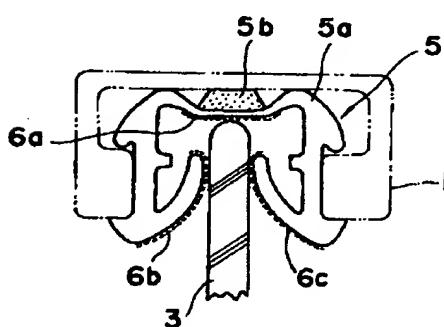
以上実施例とともに具体的に説明したように本考案によれば、密閉遮断性を向上することができる。

図面の簡単な説明

20 第1図は本考案の実施例を示す断面図、第2図は従来技術を示す断面図である。

図面中、1はドアサツシユ、3はドアガラス、5はランチヤンネル、5aはランチヤンネル本体、5bはスポンジゴムである。

第1図



第2図

